

IRENA (国際再生可能エネルギー機関) および IEA (国際エネルギー機関) の最近の動き

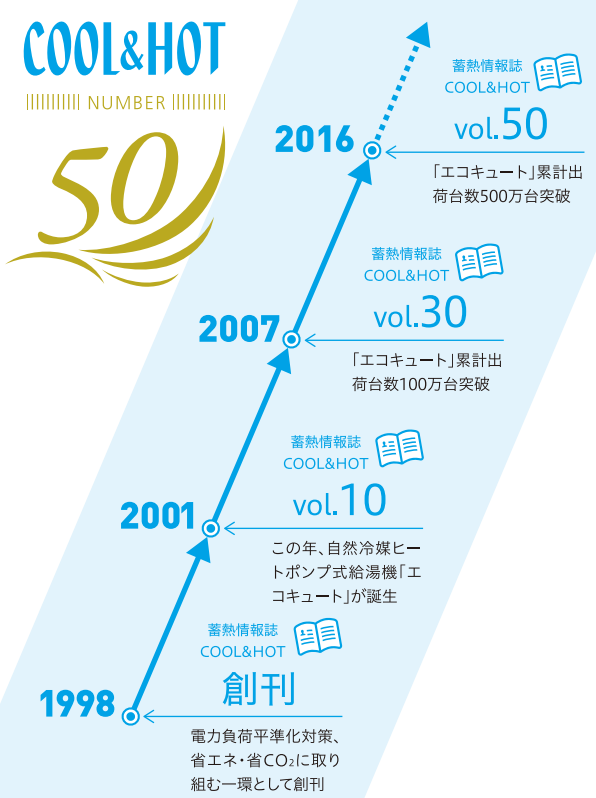
レポートについての詳細は財団ホームページまたは財団作成リーフレット「未来をつくるヒートポンプ」をご覧ください。



IRENA (国際再生可能エネルギー機関) および IEA (国際エネルギー機関) では、世界における持続可能なエネルギー利用の促進に向けて、それぞれ「Remap2030」・「Energy Technology Perspective (ETP)」を作成している。「Remap2030」では、2010年～2030年の間に世界の再生可能エネルギー利用率を倍増させようという計画で、将来にわたって持続可能なエネルギーを確保するため各国々、地域の現実的な可能性について検討を行っている。これは世界中の国々、地域がそれぞれの可能性を分析し、最終的に全地球的に取りまとめた世界初の試みとなっている。今年3月に2016年度版が発刊された「ETP」では、再生可能エネルギー利用技術であるヒートポンプに大きな期待が寄せられており、例えば、工場の中低温度域の熱利用や建物の冷暖房における他の再生可能エネルギー利用技術との効果的な組み合わせ等が推奨されている。

ETPは、安全で低炭素なエネルギー未来へ向かうための必要な技術展望・情報を提供するレポートとして2年に1度のペースで発刊されている。今年6月発刊予定のドラフトを入手したところ、世界の寒冷地（フルウェー、スエーデン、デンマーク等）の地域冷暖房がヒートポンプ技術の活用によりエネルギー利用効率が格段に上がっていることや、都市部建物の給湯分野にヒートポンプを普及させることにより大幅な省エネを図ることができ、これらが地球温暖化抑止にも貢献するとしている。

50号創刊記念 ヒートポンプ・蓄熱システムとともに歩むCOOL&HOT



一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターでは、電力負荷平準化対策、省エネ・省CO₂に取り組む活動の一環として、この広報誌「COOL&HOT」を1998年に創刊し、ヒートポンプ・蓄熱システムに関する情報誌として現在まで定期的に発行してまいりました。

創刊当初、まだまだ「ヒートポンプ」・「蓄熱」という言葉自体も馴染みがなく、環境性・省エネ性にも大変優れた効果を発揮するこのヒートポンプ・蓄熱システムをひとりでも多くの方にみなさまに理解していただくため、読者にとつてわかりやすく親しみやすい広報誌となるよう取り組んでまいりました。また、建築設備設計者・施設運営者向けのセミナー・シンポジウムや見学会等を全国各地で開催するなど、現在も普及啓発活動を続けています。

そして創刊から18年目を迎えた今年、みなさまのご支援・ご助力のおかげをもちまして、50号という節目を迎えることができました。本当にありがとうございます。

今後も、ヒートポンプ・蓄熱システムの最新情報をみなさまにわかりやすく、情報発信を続けてまいります。これからも情報誌「COOL&HOT」をご愛読くださいますよう、よろしくお願いたします。

ヒートポンプ・蓄熱センター
COOL&HOT 編集部